

## 1. 序論

- 自分の信仰に自信があるか？
  - 牧師は、愛の欠如、従順さの不足、罪深さにより自分の信仰に自信がない
- 神が滅ぼさずに救う理由
  - それでも神様は滅ぼさずに牧師として立てている。それは「主」の栄光のゆえである
- 今日【主】がなぜ、【主】に背くものを滅ぼさずに救われるのかを聖書から学ぶ

## 2. 文脈

- イザヤ書 48 章の位置付け
  - バビロン捕囚からの解放の預言の一部
  - その中で今日の箇所はイスラエルの罪の指摘している

## 3. 形式的な礼拝者イスラエル

- イスラエルの形式的な信仰
  - 【主】はイスラエルをヤコブの家(裏切り者)としての呼びかけている
  - それはイスラエルが神様に選ばれながらも形式的な信仰、礼拝をしていたから
- 真の信仰と礼拝
  - 神は心を見られる( I サム 16:7)
  - 形式的な信仰ではなく、心と従順が求められている
- キャンパーの子供の証言
  - 子供ですら心からの賛美になっているか気にする。
  - 礼拝をお受けになる神様なら尚更である。

## 4. 主を認めない頑なな者

- 神の預言と成就
  - 神様はイスラエルの過去の出来事に対して預言とその成就をしておられる
  - 過去の出来事とは、出エジプトやバビロン捕囚など一連の出来事である
- なぜ預言と成就をされたのか。イスラエルの頑なさゆえである
  - イスラエルは神様の御業を認めず、偶像に栄光を帰していた
  - 人は神様の栄光を素直に認めない罪深さを持つ
- 私たちの頑なさ
  - 神の恵みを認識せず、感謝しない日常をしていないだろうか

## 5. 背く者

- 神様は新しい創造(救い)の預言される
  - これは短期的にはバビロンからの解放のことであり、長期的にはキリストによる救いのことである
  - 【主】の救いは、人の理解を超えたことであり、秘め事と言っていい出来事である
  - なぜ、このような救いを預言されるのか？
- 人の最大の背き
  - 神の栄光を自分のものにしようとする行為であり、イスラエルを含む多くの人間はこの背きを行っている。だから、【主】は人の知らない救いを預言し実行される。
- 神の理解を超えた救いの業
  - エジプトからの救い、キュロス王の解放、キリストの贖い これらはすべて人には想像も、理解もできないこと。
  - このような救いは、全ては神様に栄光を帰すためである

## 6. 主の栄光のゆえに

- 神の救いの御業の目的
  - 自らの栄光を現すためである。
- 怒りの遅延と試練
  - 神様はご自身の栄光を現すために、私たちを滅ぼさず、試練を与える。
- バビロン捕囚もイスラエルが【主】の栄光を現すためだった
  - 事実、エルサレム帰還後のイスラエルは偶像礼拝を嫌悪し、混血を嫌っていた
- 神様は、試練を通しての神の栄光を現す器にされる

## 7. 結論:主の栄光を現す者となろう

- 自分たちは形式的な信仰生活や礼拝をしてしまう弱さがある。他にも神様の栄光を認めない弱さ、【主】の栄光を自分のものにしてしまう弱さがある。
- それでも【主】は私達を滅ぼさず、救い出し、【主】の栄光を現す器にしてください。
- 聖霊様はそのための助けをしてください。(Ⅱコリント 3:17-18)
- 恵みによって救ってくださった【主】に感謝し、霊とまことの礼拝をささげ、心から賛美し、实际的に【主】に従っていきましょう。
- あらゆる所で【主】の栄光を認め、【主】に栄光をお帰しする者となろう。
- そのために試練にも感謝して、【主】に従おう。